

令和6年度 第1回四日市市立図書館協議会会議要録

1. 日時 令和6年5月15日(水) 午後3時～午後4時30分
2. 場所 四日市市立図書館 2階 視聴覚ホール
3. 出席者 岡田博子委員、加納光委員、竹内裕子委員、竹下すま子委員、
柘植敏生委員、福永智子委員 (五十音順)
図書館:堀田館長、川崎副館長兼奉仕係長、浅野管理係長、
生川管理係員
4. 欠席者 中井孝幸委員、樋口雅也委員、諸岡篤委員
5. 傍聴者 2名
6. 議事・報告事項
 - (1)令和5年度図書館事業報告について
 - (2)令和6年度図書館事業方針について
 - (3)その他【非公開】

議事に入る前に、議事(3)については以下の理由により非公開とすることについて可否を諮り、認められた。

<理由>図書館の基本構想(案)について全体をまとめたものを示して説明・ご意見を伺いたいが、内部での検討段階の事項を含むため。

(1)令和5年度図書館事業報告について

事務局より、資料1前半を用いて令和5年度図書館実施事業について報告した。

委員:自動車文庫の拠点について説明してほしい。

図書館:現在は91箇所の駐車場を決めて、月に1回ずつ巡回している。社宅の閉鎖などの諸事情により、駐車場を使用できなくなった場合には、別の駐車場を探して変更することはあるが、頻繁な変更は行われない。現在の駐車場分布図は資料に示したとおりである。

委員:今後の展開はどうか。

図書館:自動車文庫の車両選定等にもかかわってくるが、皆さんのご意見をお聞きしながら、駐車場や頻度の見直しをしなければならない時期を迎えていると考えている。なお、駐車場所は、自治会や地区市民センターの要望などを参考に、地域的な公平性を勘案しながら展開したと聞いており、現在も、駐車場所の変更を行う際は、自治会長や地区市民センターにお知らせのうえ行っている。

委員:読み聞かせボランティアの高齢化が進み、後継者がいないのか不安だったが、本日の報告を聞き、新しい人もいたので安心した。子ども読書推進活動につながることで、今後とも引き続き実施していただきたい。

委員：コロナがおさまってきて、読み聞かせを楽しみにしていただいております、活動は大変手応えのある時間だ。会としては高齢化やニーズ減少が目立つという問題はあるが、先日参加した、子ども読書研修会が大変わかりやすく、初心に戻り確認ができた。読み聞かせ経験者にとってもそのような機会は重要なので、継続して機会を提供いただきたい。また、点訳・音訳体験講座のように、次の活動につなげられるような講座をご検討いただきたい。

図書館：音訳・点訳に関しては、図書館資料の作成に関わるということもあり、人材育成について手厚く対応している部分がある。読み聞かせについては、初心者向けの講座を実施できないか、司書と相談はしている。

(2) 令和6年度図書館事業方針について

事務局より、資料1 後半を用いて令和6年度図書館事業実施方針について報告した。

委員：子育てコンシェルジュについて説明してほしい。

図書館：赤ちゃん絵本の読み聞かせに合わせ、毎回ではないが、市役所から子育てコンシェルジュの方に来ていただいている。読み聞かせの前や終了後に子育ての相談に乗ったり、子育て支援施設の紹介をしたりしている。こども未来課の保育士だけでなく、昨年度は、こども保健福祉課から保健師を派遣してもらい、回数を増やした。転勤族の方を含め様々な方が来館され、家の近くにある子育て支援施設を教えてほしい、離乳食の相談等、様々な問い合わせがある。図書館は市民にとって来訪のハードルが低いので、ぜひこちらで情報を得てもらいたい。図書館で子育て支援施設を案内する、子育て支援施設でも図書館のことを紹介していただくなど、相互の良好な関係性を作りながら、いろんな場で子育て支援を実施したいと思っている。子どもの貸出券を作り、その日、読み聞かせで読まれた絵本を初めて借りるなど、本との出会いの場になっている。また、保護者同士が仲良くなり、つながりができるといったこともある。

委員：小さなころから図書館とつながりをもつことで、図書館がなくてはならない、生きていくための場所になるとよい。

図書館：図書を借りなくても、ただ来てもいい場として認識されればと思っている。

委員：電子図書館について。予約回数の記載がないが、予約の仕組みはあるのか。名古屋市の場合、電子書籍を読もうと思っても、予約が数十番目になって、読めない、といった状況もあると聞く。

図書館：コンテンツによって、1人ずつしか読むことができないものと、同時に何人もが読める「読み放題パック」というものがある。1人ずつしか読むことができないものは、紙の本と同じように貸出中であれば予約ができる。ドラマの原作などで話題になり、予約が集中して入ると、貸出回数の上限に達してコンテンツが消えたり、これ以上予約受付ができない、という状態になる。学校でも、誰かが話題の本を予約したら、その友達も予約するなどして予約

が集中することもあるのでは、と思う。利用が集中して予約できないという本は、児童書を中心に数冊生じているが、再度購入するなど、引き続き利用ができるようにしている。同時に何人もが読める「読み放題パック」は、例えば学校の朝読で、同じ本を同時に、それぞれが読む、ということができる。予約は不要であり、貸出ではなく閲覧という仕組みになる。

委員：読み放題パックはすごいと思って聞いていた。売りになるのではと思う。

図書館：また、電子図書館ホームページのトップ画面をご覧くださいと、テーマに沿っていろんな本を紹介している。しかし、そこで、予約が10人、などの本が表示されていては、読みたい気持ちがそがれてしまうので、トップ画面に出てくる本を、司書が頻繁に更新し、すぐに読むことができる本を表示させている。20,000 コンテンツ以上あるので、様々な特集を組んで本を紹介し、新しく本と出会う機会をつくっている。紙の本でいうところの、書架の間を歩き、見て、探ることができるブラウジングの代わりに、司書が工夫をしている。

委員：短期間で東海地区最大規模の電子図書館となったのは素晴らしい。

図書館：司書が頑張っていることを示しておきたい。

以下、非公開

以上